

# ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻

## 1. カリキュラム・ポリシー

ビジネスデザイン研究科では、教育研究上の目的に基づき、知の探究・結合・統合・実体化を具現化し、継続的な価値実現・価値創造のプロセスを構築できる高度な専門職業人を養成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- ・複雑化・高度化・知識化している問題の解決と価値創造の課題に直面している社会人にも学習できるように、平日の夜間・土曜・日曜にも開講する。これによって、現在大きな変革に直面している多くの社会人が経営に関する専門知識を学び、最新の経営の課題(issue)・哲学・手法を吸収し、仕事の中で大きな変革をする力を得ることができるようになる。
- ・狭い専門性ではなく、幅広い専門性を前提とした俯瞰的な視野を獲得するために、経営と情報メディアに関する専門知識とスキルを基礎から学ぶことを義務付ける。「マネジメント・サイエンス」科目群の大部分は必修科目として設けられ履修を義務付ける。すでに実務経験と専門知識を有する学生に対しては、試験を実施し単位を認定する。経営に関して学ぶ機会を持たなかった社会人に対しても体系的に学習する機会を与え、基礎をきちんと身につけた上で、複雑な経営課題に取り組んでいく。
- ・「マネジメント・サイエンス」科目群の必修科目は修了単位の半数に達している。多くの大学院では、経営に関する専門知識を選択必修にしているのに対して、本研究科は基礎を重視し幅広い専門性と俯瞰的な視野の獲得をめざす。
- ・知のデザインに関して、「ビジネス・コミュニケーション・デザイン」、「ビジネスモデル・デザイン」、「メディア・コンテンツ・デザイン」の3つの領域を設けている。知の統合能力・「知のデザインとマネジメント」能力の養成をめざす。
- ・複雑な経済社会システムの課題に対して、次の2つのアプローチで接近する。
  1. 現象を分析し因果構造を論理的に明らかにする認知科学的なアプローチの「修士論文」
  2. 問題・仮説(対象のあるべき姿と現状の乖離)と発見し、解決モデルと新しい価値を設計し構築・実践・評価するデザイン科学的なアプローチの「プロジェクト研究」
- ・「プロジェクト研究」は、「ケーススタディ」と「ケース・エクスペリエンス」を融合したもので、多様な知を総動員し統合し、未知の問題と価値を発見し、コミュニケーションとコラボレーションを通じて解決していくアプローチである。「具体的な課題(issue)に対して、どのように考え、どのように接近し、どのように取り組んでいくべきか」、「問題解決と価値創造のために、知をどのように統合し・構造化し、デザインとマネジメントしていくべきか」をケースと具体的な問題解決の実践を通じて学ぶ。

## 2. ディプロマ・ポリシー

ビジネスデザイン研究科は、以下の要件を満たした者に、「修士（経営学）」の学位を授与する。

- ・広い視野に立って精深な学識を授け、高度の専門性を要する職業等に必要な能力及び専攻分野における研究能力を身につけていること。
- ・本課程に原則として2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、本学学位規程に定める修士論文の審査及び最終試験に合格すること。
- ・本専攻においては、知の探究・結合・統合・実体化を具現化し、継続的な価値実現・価値創造のプロセスを構築できる高度な専門職業人としてふさわしい能力・知識・倫理観を身につけていること。

## 3. 修士論文指導は、次のように実施していく。

入学時に提出する研究計画を基に指導教員を決定する。指導教員は学生と協議のもとに副査2名を選出し、指導教員と副査より適時指導を行っていく。公開発表会における発表等をとおして指導教員、副査以外の研究科所属教員も随時指導に協力する。

学年	期間	発表会計画	留意点等
1年次	入学時	『研究計画書』提出	1年次終了までに副査2名を決定
2年次	前半	論文作成計画発表	研究テーマの独創性と可能性 問題設定と研究意義の妥当性 研究方法，参考文献，調査・資料収集の計画性
	後半	修士論文概要発表	参考文献，調査資料，データ分析の適切さと信頼性 論文作成能力の到達度

## 4. 修士論文概要発表において、指導教員および副査より論文提出の許可を得た者が、最終的に修士論文の審査を願い出ることができる。

提出に関する詳細は、以下のとおりである。

## ○学位論文提出期間

年度によって提出期間及び締め切り日等は異なるが、概ね1月もしくは、7月を提出期間として設定する。

\*必ず、掲示や当該大学院事務室にて確認のこと。

## ○大学に提出するもの

- ①学位論文提出票……………1部
- ②学位論文審査願（所定用紙）……1部
- ③提出許可届……………1部
- ④誓約書……………1部
- ⑤修士論文……………4部および電子データ

⑥修士論文要旨……………4部および電子データ

○修士論文並びに修士論文要旨の作成様式

①記載言語は、和文、英文を問わないが、横書きで記載し、左綴じとする。

②用紙は、白色上質紙（レーザープリントに適応できるもの）のA4版（横210×縦297mm）とし、以下の字組で記載すること。

和文の場合 1ページあたり、1行を40字とし36行とする。

英文の場合 1ページあたり、1行を半角の70字とし36行とする。

③各表紙・ページの余白については、後掲の修士課程用様式に従って作成すること。

④ページ番号の記載方法については、用紙下段（余白）の中央に記入すること。

⑤文章の記載方法については、パソコンの文書作成ソフトを用いること。

⑥注の表記や出典の表記等の学術表記は、指導教員の指示に従うこと。

⑦修士論文要旨の分量

和文……4,000字以上～6,000字以内

英文……A4版1ページ36行5枚以内

⑧修士論文の分量

和文……28,000字相当以上

英文……A4版1ページ36行40枚以上

\*和文・英文とも、上記分量に、参考文献と添付資料は分量に含めない。

\*縦書きの場合は、学部事務室へ問い合わせること。

5. 修士論文提出後に行う最終口述試験は、パワーポイントを使用することを原則として、次の要領で実施する。

(1) 指導教員及び副査2名以上で行う。時間は、発表20分、質疑応答10分とする。

(2) 審査は主に次に挙げる事項に留意して審査を進める。

①研究テーマ設定の斬新性

②注釈、図表など適切に表記しているかどうか。

③研究の意義を十分理解し、研究成果の発展の可能性を認識しているかどうか。

④研究内容を簡潔にプレゼンテーションし、質問に的確に答えることができたか。

⑤論文の分量は適切か。

以上の点を総合的に評価し、主査及び副査は、論文審査における「合」「否」、口述試験における「合」「否」を決定、双方の「合」をもって修了可とする。

6. 主査と副査は、審査結果および試験結果について研究科長宛に文書をもって報告する。

